

## 水のおかげで生きている

阿久根莉南

宮若市立 宮田南小学校

七月十三日（木）に「遠賀川中流浄化センター」の方々から宮若市立宮田南小学校に来てくださいました。内容は、一、水の循環と下水道の役割、二、遠賀川中流浄化センターの紹介、三、実験コーナー、四、まとめでした。数えていただいたおかげでたくさんの方が分りました。まず、最初に下水道の働きについて知りました。下水とは、家庭や学校、工場などで人が水を使い、汚した水のことです。下水道は「水の循環」の中で、みんなが使った汚した水を、きれいに川に戻す働きをしています。それでなぜ水がきれいではないといけないかを考えました。分かったことは、魚や水辺の生き物が生きられない環境になり、川や海から、「くさいにおい」や、「ハエなどの害虫」がやってきてしまうからです。また、汚れた水が原因で、病気が広がるかのうせいがあるからでした。下水道は、自然環境やみんなの生活環境を良くし守るために、下水を処理をしています。そのため、とても大切な施設なのです。平成十八年九月から直方市、小竹町、宮若市の下水をきれいにしてきているそうです。汚れた水は、下水道管で集められ、それから浄化センターへ運ばれているのです。その後、ポンプで土や砂、ゴミを取ります。水処理施設では、ちんでん池、生物反応槽、最終ちんでん池の順番で下水がきれいな水に変わります。一、水にとけないよごれ、二、水にとけるよごれがありました。二の水にとけるよごれはほとんど、ちんでんしません。一の水にとけないよご

れはどろのようにしずんでいきます。よごれをしずめた水は、その後、生物反応槽へ運ばれていきます。水のよごれをたくさんの方が食べてくれます。その名も、び生物です。び生物とは、一ミリの目に見えないほどとても小さな生き物です。このび生物は生きていくために空気が必要です。送風機で、空気を送りこんでいます。約十三時間もかけてきれいな水を作っています。び生物が水のよごれを食べた後しずみやすくなります。約五時間かけて活性汚泥をとります。薬品で消毒を最終ちんでん池で出た水にしているそうです。かんりとうや水質しけん室、中央かんし室は、三百六十五日、休まず交代で働いています。楽しみだった実験をしました。初めに、「トイレットペーパー」と「ティッシュペーパー」のとけ方のちがいを調べました。調べ方は、水の入ったペットボトルにトイレットペーパーとティッシュペーパーを別々に入れ、ふって、とけるかどうかです。トイレットペーパーは良くとけたがティッシュペーパーはあまりとけませんでした。そのため、トイレにはトイレットペーパーを流さなければならぬのです。次は、きれいな水の色と、まだ少しにごっているときの色をくらべました。一番きれいな水の色はピンク色でした。そしてその反対の少しにごっている水は黄色でした。さがとてもありびつくりしました。これからは、水をむだに使わず大切に使いたいです。